

## No.2364

### 中央アルプス南部の名峰を訪ねる

#### 越百山・空木岳

実施日 2008年8月2日(土)～5日(火)

天候 晴/曇・にわか雨

リーダー 馬場 清士

参加者 斎恵美子、馬場清士、涌井良明、島本陳重 計4名

費用 交通費 12,220円 宿泊費他 17,600円 合計 29,820円

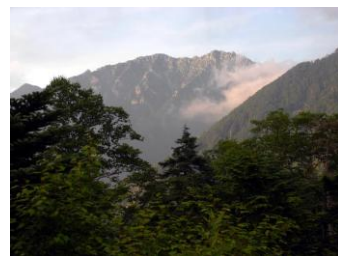
タイム 2日 民宿「いとせ」泊  
3日 いとせ(6:00 タクシー)ゲート(6:25) 登山口(7:20～7:25)下のコル(8:15～8:30)六合目(9:35～10:00)上の水場(10:40～11:40)昼食八合目(12:00～12:10)越百小屋(13:05)泊  
4日 越百小屋(5:45)越百山(6:50)仙涯嶺(8:40)南駒ヶ岳[10:50～11:05]摺鉢窪分岐(11:40～12:15 昼食)赤柳山(12:35～12:45 大休止)空木岳(14:10)駒峰ヒュッテ(14:30)泊  
5日 駒峰ヒュッテ(6:05)マセナギ(9:15)池山小屋水場(9:50～10:10)タカウチ場(10:40)林道終点(11:10)菅ノ台バスセンター(12:10)

2日 晴れ、16時12分 中央本線 須原駅(無人駅)を4人で降りると、駅にも駅前広場にも誰もいない、道を尋ねようと商店を覗いて



も誰も出てこない。見当をつけて木曾路(中仙道)を横切り、木曾川を渡る所でやっとご老人に会うことが出来、民宿の場所を確認できた。まるでゴーストダウンのようだ。民宿「いとせ」で田舎料理をいただき、二間続きの広い和室でゆっくり寝むことが出来た。

3日 晴れ、6時 伊奈川ダムの少し先、登山口近くのゲートまでタクシーで行く。登山道に入ると熊笹の斜面をいきなりジグザグの急登、しらびその樹林の中に行く、遠見尾根の林間から、南駒ヶ岳が望める。急登をこなし七合目の水場で大休止昼食



を摂る。此处で今日から明日にかけての飲み水、自炊用の水を各自30から40補給し担ぐことになる。ザックの重量は15～16kgくらいに

なったかな・・・これだから中アは堪える。急登を繰り返し八合目を過ぎると、鞍部に越百小屋が建っている、「やっと着いた あーしんどかった」越百小屋は、40人程泊れる小さな小屋で天ぷら定食が定番。今日の宿泊者は20数名位か。正面に明日行く越百山、左に南駒ヶ岳が望める。

4日 4時40分 起床、北の風、山に雲が掛かっておりあまり良くない感じがする。前線が南下を始めたか?しらびその樹林帯を抜け、雪と北風にいじめられて、曲がりくねって奇妙な形に育ったダケカンバの林を急登すると越百山だ。風が強くとガスが掛かり、期待していた展望はまったく無い、クヤシー残念、これから行く仙涯嶺も雲の中だ。ガレとザレのハイマツ帯を降下して、鞍部から滑りやすいザレの急斜面を登ると仙涯嶺だが、ガスっていて山頂が分からない。



読み取ることが出来ない朽ちかけた道標らしき物が1本立っている。



相変わらず視界は無い。奇岩のオブジェがあちこちに見られる。仙涯嶺の岩場をトラバースするが、ガスで木曾側が切れ落ちているのが

見えず怖くない。(服部さんがいなくてよかった～)

滑りやすい斜面を鞍部まで急降下する。南駒ヶ岳へ続く稜線の斜面は、高山植物の宝庫だ。(景色が望めないならせめて花でも・・・) 齋先生、涌井先生に花の名前を聞きながら登って



いるうちに南駒ヶ岳山頂だ。(お二人とも詳しくて恐れ入りました) 晴れていれば空木岳が望めるのに、此処でもクヤシー!

ガレ場の急斜面を下り、摺鉢窪の分岐で花に囲まれ昼食とした。

眼下にメルヘンチックな摺鉢窪の避難小屋が見える。赤檜山を越え最後の空木岳へ向かう。

雲の切れ目から山並みが覗くが、相変わらず雲は低い。滑りやすいザレと岩の道をひたすら登る。空木岳の山頂は、花崗岩が立ち



並び大岩の下に祠が祀られている。

振り返っても南駒ヶ岳は何処へいった! ガスが濃くなり、山頂直下に建っている

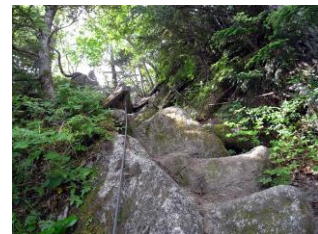
駒峰ヒュッテに入った途端に夕立が来た、セーフ、これは付いていた。

担ぎ上げた大切な水で簡単な自炊をし、無事に此処まで来た祝杯を挙げた。明日は晴天になりますように・・・おやすみなさ～い。



5日 3時から4時頃、寝床の中で激しい雨の音がする、や～な感じ。4時半 ♪目を開けて何も見えず～・・・雨は止んでいたがガスの中、空木岳は知らん顔、朝食を摂り雨具を付け後ろ髪を引かれる思いで下山を開始した。♪さらば一空木よ～～・・・ 砂礫

の道を急降下し、ワイヤーロープ、梯子、栈道、鎖の続く小地獄、大地獄を過ぎて、池山小屋の水場に着き、久しぶりに冷たい清水を



口にした。ウマイ! 下界が近くなり蝉の鳴き声も響き、蒸し暑さもを感じるようになり薄日が射してきた。明日は晴れか、またクヤシー、空木岳から菅ノ台バスセンターまで標高約 2,000m を一気に下った。四日振りの汗を流そうと「こまくさの湯」に向かったが、着く前に天然のシャワーの洗礼を受けてしまった。

これは付いていなかった。一風呂浴び、地ビールで疲れを癒し帰途についた。仙涯嶺から南駒ヶ岳まで、高山植物と緊張の連続であった。充実山行の出来たメンバーに感謝、感謝

因みに、巡り会えた花の名を列挙しておきます(齋さん、涌井さんからの聞き取りです)

イワカガミ、ヨツバシオガマ、ウラジロナナカマド、シナノオトギリ、コマウスユキソウ、チドリ、ツガザクラ、ハクサンフウロ、イワキキョウ、ゴゼンタ

チバナ、ハクサンイチゲ、ヤマシシウド、ハハコグサ、ウラシマツツジ、チングルマ、シナノキンバイ、クロユリ、

ミヤマキンポウゲ、ミヤマキンバイ、ホツツジ、ウサギギク、イワツメグクサ、トリカブト、コゴメグサ、カラマツソウ、トリアシショウマ、タカネニガナ、ミヤマダイコンソウ、トウヤクリンドウ、カライトソウ、ウツボグサ、ギボシ、シモツケソウ、キバナスミレ等など

(記・馬場 清士)

(写真提供・涌井良明)

